

2006年10月12日

報道関係各位

株式会社 ペルセウス プロテオミクス

ペルセウス、中外製薬と抗グリピカン3抗体の治療用医薬品 用途に関する権利譲渡契約を締結

株式会社 ペルセウス プロテオミクス(本社:東京都目黒区、社長:松田和之、以下「ペルセウス」)は、中外製薬株式会社(本社:東京都中央区、社長:永山治、以下「中外製薬」)との間で、抗グリピカン3抗体の治療用医薬品用途についての発明にかかる「特許を受ける権利」等の譲渡に関する契約を締結したことを、お知らせ致します。

東京大学先端科学技術研究センターのシステム生物学ラボラトリー(以下「東大先端研 LSBM」)の油谷浩幸教授らとペルセウスの研究者は、2000年、グリピカン3が肝臓がん細胞で特異的に高発現することを発見し、その後の中外製薬との共同研究において抗グリピカン3抗体が抗腫瘍活性を示すことを明らかにしております。

ペルセウスは、この取引において、契約一時金に加えてマイルストーン報酬および上市後の売上に対するロイヤリティーを中外製薬から受け取ります。

さらに、ペルセウスは、抗グリピカン3抗体治療薬の分子標的医薬品としての価値を高めるために、同抗体治療薬の投与判定に用いる診断薬の開発に取り組んでいます。

ペルセウスは、東大先端研 LSBM から技術移転を受け設立された創薬系バイオベンチャーです。東大先端研 LSBM 浜窪隆雄教授から導入した抗原発現技術^(注1)と株式会社 特殊免疫研究所(本社:東京都文京区、社長:中村徹雄)から継承した抗体作製技術を融合し、医薬品や診断薬になりうるモノクローナル抗体^(注2)を作製しています。また、ペルセウスは、東大先端研 LSBM 児玉龍彦教授がプロジェクトリーダーを務める2つの国家プロジェクトに参加しており、2003年より経済産業省 NEDO プロジェクト(2006年からは、テーマ:新機能抗体創製技術開発)ならびに2005年から厚生労働省医薬基盤研究所プロジェクト(テーマ:ゲノム抗体創薬によるガンと生活習慣病の統合的診断・治療法の開発)において、産学連携の成果を世に出すべく、機能性抗体の開発に取り組んでいます。

ペルセウスは、現在、がん抗体治療薬シーズについて、複数のがん疾患を対象に複数のシーズ抗体を開発中です。また、生活習慣病の重要な創薬標的として知られている核内受容体^(注3)全 48 種類に対するモノクローナル抗体を世界で唯一揃えており、全世界で研究用試薬として販売しています。

2005 年には、動脈硬化マーカーとなることが期待されている PTX3^(注4)の診断薬開発パートナーである臨床開発支援国内最大手シミック株式会社からの資本参加を受け、また 2006 年 1 月には富士フイルム株式会社（現在、筆頭株主）の資本参加をうけ、医薬品開発にとって強力な事業パートナーとの連携を構築しました。富士フイルムとは、がんや生活習慣病の測定マーカーを使った診断システムや、富士フイルム固有の素材を用いて生体内分子を可視化する分子イメージング技術を活用した医薬品または治療・診断技術の開発を進めています。

ペルセウスは、今回契約締結に至った抗グリピカン 3 抗体を皮切りに、東大先端研 LSBM、富士フイルム、シミックをはじめとするパートナーと連携しながら、日本発のグローバル競争力のある医薬品ならびに医療技術の創造・発展に取り組んでまいります。

【ペルセウスプロテオミクスの会社概要】

- 1) 商号 株式会社ペルセウスプロテオミクス
- 2) 代表者 松田 和之
- 3) 所在地 東京都目黒区駒場四丁目 7 番 6 号
- 4) 設立 2001 年 2 月 1 日
- 5) 資本金 11 億 8,825 万円（2006 年 10 月 1 日現在）
- 6) 従業員数 30 名（2006 年 10 月 1 日現在）
- 7) 事業内容 抗体医薬品開発・体外診断薬開発・研究用試薬製造販売・核内受容体創薬

【問い合わせ先】

株式会社 ペルセウス プロテオミクス

〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-7-6

IR 広報担当 電話：03-5738-1705 ファックス：03-3481-5760

<http://www.ppmx.com>

Email：irpr@ppmx.com

注 1)

抗体を作るための抗原として機能する特定のタンパク質を、煩雑なタンパク質精製工程を経ずに大量に発現させることのできる発芽バキュロウイルス発現技術です。この発芽バキュロウイルス発現技術は、昆虫細胞の中で効率良く増殖するバキュロウイルスに、抗原となるタンパク質を作る遺伝子を組み込んで培養し、ウイルス表面に発芽するように抗原を発現させ、回収する技術です。

注 2)

モノクローナル抗体とは、単一の抗体産生細胞に由来するクローンが得られた抗体分子で、高い特異性、均質性、大量生産が可能という利便性があります。

注 3)

核内受容体とは、核内にあるタンパク質で、糖・脂質代謝、骨代謝、抗炎症作用、免疫抑制作用などの重要な生命機能にかかわる種々の遺伝子発現制御を行っていることが知られています。人には全部で 48 種類の核内受容体があるとされ、例えば生活習慣病の代表例である糖尿病に対して、糖・脂質代謝に関わる核内受容体を活性化させる治療薬が開発されています。

注 4)

PTX3 (ペントラキシン 3) は、血管の炎症に関与するタンパク質の 1 つです。血液中の PTX3 を測定することにより、生活習慣病に深く関連する動脈硬化や、狭心症・心筋梗塞などの心疾患の病態の把握が可能となることが期待されています。